山村再生プロジェクト
若い力を生かせ

長和町×東京農大の学生

長和町では、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科（東京都）と連携して同町の活性化の在り方を探る事業「山村再生プロジェクト」を2011年から月1回・3日間の日程で行っている。これは、学生が地域再生・活性化の総合プランナーを目指すプロジェクトだ。山村地域に存在する課題を主体的に把握し、解決策を考え実践し、得られた成果を分析、対策を練り再び実践するという。主な舞台は、町が地主から無償で借り受けた、遊休荒廃農地約2・5㌶。ここで学生たちが獣害対策用の柵の設置や農作業、炭焼き体験や植林に取り組んでいる。町は学生の柔軟な発想を生かした活性化の提案を期待している。地域づくりの人材教育を目標にした試みは全国でも珍しい。学生たちの昨年一年間の活動を紹介する。

課題など意見交換

町の理事者と議会議員との意見交換会を行った。山村再生プロジェクト活動を通じて、学生が感じた課題や提案を説明。この地に住んでいる人にとって普遍的なものが、学生たちには新しいものに映り、独創的なアイデアの提案になった。

獣害減らすぞ

約1.5㌔に柵設置

猛暑の7月、大問地区の宮ノ上自治会のメンバーと協働で獣害対策の柵を設置した。今回は、今まで設置した場所の中で一番急傾斜だ。東側の山の中約1・5㌔に設置した。「援農」という観点から、学生たちが主体となって作業が進められた。長和町では柵の資機材の補助を行っている。昨年で7年目を迎え、全長は約60㌔にまで延びた。農作物への被害は年々右肩下がりになっているという。

遊休農地で多彩な取り組み

炭焼き窯作り

自然エネルギーが見直される現在、バイオマスなどさまざまな分野で推進されている。同プロジェクトでは、炭焼き窯作りに挑戦。

定期的にワークショップ

旧町村時代（旧長門町・旧和田村）の「農村環境調査マップ」を基に、歴史・文化・自然・生活環境を見聞し、住民と対話する農村環境調査を行った。学生たちは、多くの人と対話する中で「自然を愛し・尊び・共存する。その中から地域文化が創造されてきた」と感じたという。

農作業の後は舌鼓

農作業は、草との闘い。日々の管理が大切だ。学生たちが愛情をかけて育てたトウモロコシやキュウリなどの夏野菜を収穫した。

その後、清流で猛暑を吹き飛ばす「魚のつかみ取り」を実施。住民らに川魚のさばき方や竹串の刺し方を教わり、昼食と一緒に「山の幸」を堪能した。

文化・伝統も体感

400年続く大山獅子

400年の伝統がある大山獅子。一時期途絶えたが、復活を強く願う地域住民の協力で現在まで継承されている。若い力がなくなっていく山村では、地域の伝統文化の維持が危惧されている、祭りの在り方について、考えることができたという学生たち。

ダッタンそば作りも

「ダッタンそば」は、「健康食品」と注目され、町の特産物として知名度が上がってきている。栄養成分の中で、すば抜けてポリフェノール（ルチン）の含有量が高く「普通そば」の100倍といわれ、成人病の予防や治療に有効だと報告されている。

7月に播種したダッタンそばを10月に手刈りしわらで束ねて「屋立乾燥（土壌水分を吸収し、穀類の水分が戻るため、比較的短期間で乾燥できる）」した。

NOSAI
ながの
おかげさまで65周年
農業災害補償制度施行65周年
問い合わせ先
NOSAI東信 ☎0267(58)2580
NOSAI南信 ☎0265(73)2195
NOSAI中信 ☎0263(40)2500
NOSAI北信 ☎0269(26)0873
NOSAI長野（県農業共済連） ☎026(217)5800
あけましておめでとう

2013年
長野県NOSAIのイメージキャラクター、のっくんとさっちゃんです。